

全国大会が横浜で開催されました

去る10月17日(木)から19日(金)の3日間、第77回全国産業安全衛生大会が横浜市において盛大に開催されました。全国各地から約11,200名(主催者発表)が集まり、うち群馬県からは約100名が参加しました。

横浜市での開催は実に25年振りのことで、今年度は第13次労働災害防止計画(5ヶ年計画)の初年度に当たることから、「安全・健康の決意新たにトップの率先 職場の改善」が大会テーマとなりました。

横浜アリーナを会場にした初日の総合集会では、労働安全衛生の功績者に対する表彰式、また厚生労働省労働基準局の講演、さらには経済学博士で東京大学名誉教授の伊藤元重氏による「日本の未来―働き方改革、高齢化、技術革新」と題した特別講演が行われました。表彰式においては、緑十字賞の部において、全国で100名(産業安全42名、労働衛生16名、産業安全及び労働衛生42名。)が受賞し、当県からは、①「産業安全及び労働衛生」で十九浦健治氏(三笠産業株式会社代表取締役)、②「労働衛生」で工藤敏彰氏(労働衛生コンサルタント)の計2名が受賞されました。

2日目と3日目には、横浜ベイシェラトンホテル&タワーズほか計10会場において、「リスクアセスメント・マネジメントシステム分科会」など14の分科会で270件に及ぶ講演と研究発表が行われました。当県からは、①株式会社SUBARU人事部安全企画主査の日野貴透氏より、「300撲滅活動の一考察」、②群馬県立太田産業技術専門校訓練指導第1技師の長谷川豪氏より、「若者安全衛生教育について」の各テーマでそれぞれ発表が行われました。

また、本大会期間中、緑十字展がパシフィコ横浜において同時開催され、安全衛生保護具等の展示・紹介が行われました。

なお、来年の全国大会は、京都市において、10月23日(木)から10月25日(金)の日程で開催されることが決まっています。



会場の模様



主催者挨拶



町田会長(左)、堀口副会長(右)と緑十字賞受賞者



緑十字賞受賞者の工藤さん(左)と十九浦さん(右)



株式会社SUBARUの日野さん



太田産業技術専門校の長谷川さん